

3. 今後の検討への提案

安全目標検討合同 WG では、1年間の議論の成果として WG 報告書を作成することを目指して活動を進めてきた。今般、安全目標の必要性、位置づけ（制定の形態）、定量・定性的安全目標の内容、性能目標・管理目標との関係、規制や事業者での使い方について、旧原子力安全委員会、原子力規制委員会、原子力学会、IAEA や海外の状況とといったまままでに公開されている文書をもとにして、日本における今後の安全目標の検討に必要な論点の提示、論点のうち可能なものは対応方針の提示、解決が困難と予想されるものの課題をまとめた。

上述の状況を踏まえ、本 WG の活動を今後の我が国の原子力安全目標にかかる検討に役立てていくとともに、安全目標の制定の形式、規制上の位置づけ、適用にかかる考え方、社会との合意などのために、2025 年度も WG 活動を継続することとし、挙げられた論点に対して議論を深めていくこととしたい。特に、実機適用に向けて重要な補助指標となる性能目標に係る議論を行い、その上で、主として活用することになる事業者、規制機関との意見交換を進めていきたい。

それに加えて、安全目標は社会の理解が不可避であり、広く社会からの意見を取り入れる必要があるため、セミナーを通じて広く意見交換を進めるとともに、東京大学と日本原子力研究開発機構の国研連携講座「原子力安全マネジメント学講座」の一環として設置された「安全目標に関する検討委員会」との連携も検討していきたい。